

No.2714

台湾におけるシラヤ族の民族的アイデンティティの形成に関する人類学的研究
—博物館資料の社会還元と先住民族の手工芸再興を中心に

総合研究大学院大学文化科学研究科 博士後期課程
呂 怡屏

活動項目

1. 台湾の博物館におけるシラヤ族とタイヴォアン人の刺繍が施された服飾の目録の調査。
2. シラヤ族のG村落とタイヴォアン人のS村落において、刺繍工芸の再興の活動に関する参与観察と聞き取り調査。

調査内容

近年、台湾における原住民族権利の要求を背景にして、平埔族の人々の政治的権利の要求と文化復興の動きが盛んになった。本調査は、台湾の平埔族に属するシラヤ族とシラヤ族の支族に分類されるタイヴォアン人が文化復興と文化伝承をする際に、博物館に収蔵されている刺繍が施された服飾の資料を活用することを取り上げ、シラヤ族の民族アイデンティティが形成されるメカニズムを明らかにするものである。

研究対象であるシラヤ族及びタイヴォアン人は台湾南部と南東部に住んでいる。2009年の台風災害によって居住地が失われたタイヴォアン人の被災者は、物質文化の再構築を通じて、文化的特性をもつ民族集団であることを主張するようになった。

本調査の1年目にあたる2016年度には、台湾の博物館におけるシラヤ族とタイヴォアン人の刺繍が施された服飾の目録調査をおこなった。その結果、収集地がタイヴォアン人の村落と記録された資料が比較的多いことが明らかとなり、社会における刺繍工芸の位置づけの研究をおこなう際の基礎資料として有効であるという見通しを得た。

また、シラヤ族のG村落とタイヴォアン人のS村落において、刺繍工芸の再興の活動に関する参与観察と聞き取り調査をおこなった。G村落では刺繍の研修が実施されており、その中で村落の文化復興事業の担当者はシラヤ族の衣装に関する歴史と博物館の刺繍に関連した収蔵品との繋がりを村民に伝えることを重視していた。こうしたことから、歴史文献と博物館資料の両方を活用しながら、刺繍工芸をシラヤ族の伝統文化として位置付けるという文化復興の戦略が取られていることが理解できる。

一方、S村落における刺繍の研修では、刺繍の技法を習得することが重視されていた。刺繍を日常生活の中で実践することにより、独自の物質文化を維持している民族集団としての意識の構築が可能となっていた。

2年目の研究では、シラヤ族とタイヴォアン人の刺繍に関わる活動と製作物の商品化を検討し、物質文化を通じた民族アイデンティティの構築のメカニズムを考察していきたい。